

献 辞

恒藤武二先生が古稀をお迎えになられましたことを心からお慶び申し上げます。ここに論文集を献呈できますことは法学部にとりましてこの上ない悦びとするところであります。

先生は昭和十八年、同志社大学法学部を卒業され、爾来一貫して、法学部において研究と学生の教育に専念してこられました。先生のご研究の中心は基礎法学と労働法学にあり、特に、フランス法思想と英米法理学に関する多くのご業績を発表してこられました。その集大成ともいえる『法思想史』が昭和五二年に公刊されましたことは我々の記憶に新しいところであります。また、労働法学の分野においても活発なご研究を進めてこられ、『フランス労働法史』(昭三〇)、『労働基準法』(昭四六)、『労働者保護法』(平一)等のご著書を中心に日本の学界に大きな足跡を印してこられました。

先生が長年にわたり学生に対し示してこられました教育姿勢は、学問的厳しさを人間的暖かさをもって教示されるものであり、その広く深い学識と高潔な人格に裏打ちされたご講義は学生に大きな感化を与え、その薫陶を受けた多くの卒業生が今日、各界にあって活躍しているところであります。

この間、先生は昭和三六年と四二年には、法学部長として学部の実質発展のために並々ならぬお力を尽されました。今日の法学部の隆盛は先生の卓越したご指導の賜と言えるのであります。先生が示されました学問に対する厳しい態

度、比較法的視点、リベラルな教育観、学部運営における公平な姿勢は今日の法学部の学風とも言えるものであります。

法学部の一世紀に及ぶ激動の歴史の中にあつて、その半世紀の歩みを共にしてこられました先生のご助言は、これからの学部の進展にとりまして不可欠のものであります。先生の益々のご健勝をお祈り申し上げますとともに今後とも法学部の将来に対する絶えざるご叱正とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

一九九二年一月

釜 田 泰 介
法 学 部 長